

博士課程教育リーディングプログラム
採択プログラムに係るフォローアップについて (改正案)

平成 23 年 11 月 28 日

(平成 25 年 3 月 11 日改正)

(平成 26 年 2 月 25 日改正)

(平成〇〇年〇月〇〇日改正)

博士課程教育リーディングプログラム委員会決定

1. 内容

事業目的の着実な達成に資するため、採択プログラムを実施する大学（以下、「実施大学」という。）に赴き、学生を含む関係者との質疑応答及び教育現場の視察等を行うことにより、プログラムの進捗状況を適切に把握・確認するとともに、必要に応じて、指導・助言を行う。

2. 実施体制

- i) フォローアップは、博士課程教育リーディングプログラム委員会（以下、「委員会」という。）の類型別審査・評価部会（以下、「部会」という。）を中心に行う。
- ii) 部会は、採択プログラムごとに、フォローアップ担当委員（以下、「担当委員」という。）として、原則として部会委員のうち 3 名の委員（主担当委員として学界 1 名、副担当委員として学界 1 名及び産業界 1 名）を割り当てる。
- iii) また、担当委員との連携のもとに、各採択プログラム（複数を兼ねる場合を含む。）に対する日常的な進捗状況の把握、相談、助言等の対応を行うプログラムオフィサーを別に置く。プログラムオフィサーは、企業、国際機関、外国の大学等、海外での勤務経験を有する者等のうちから独立行政法人日本学術振興会理事長が任命する。

3. 実施方法

① 実施手順

<実施大学>

実施大学は、自己点検評価や外部評価により、プログラムの適正な実施に努めつつ、毎年度終了時に、採択プログラムごとに実施状況報告書（別紙 1）を作成し、委員会に提出する。なお、中間・事後評価実施前年度分の同報告書の作成・提出については要しない。

<担当委員>

- i) 担当委員は、提出のあった実施状況報告書の内容を確認するとともに、現地を訪問し、実施大学の関係者から説明を受け、質疑応答を行うとともに、教育現場等の視察を行う（委員現地視察）。その際、原則として支援対象学生からの意見も併せて聴取する。
なお、産業界の副担当委員については、現地視察に可能な範囲もしくは必要に応じて対応するものとする。また、他の部会委員も任意で現地視察に参加することができる。

ii) その結果、以下に示す観点から、採択プログラムが適正に実施されているかどうかを把握し、必要に応じて、指導・助言を行う。

iii) 現地視察後、現地視察報告書（別紙2）を作成し、部会に提出する。

<プログラムオフィサー>

i) プログラムオフィサーは、担当する採択プログラムのプログラムコーディネーターと連絡を保ちつつ、毎年度、必要に応じて機動的に実施大学を訪問（PO現地訪問）し、支援対象学生との対話等を含め、プログラムの進捗状況を確認するとともに、プログラムの改善・充実に必要な相談、助言等のケアを積極的に行う。

ii) PO現地訪問については、委員現地視察スケジュール等を参考に実施する。また、必要に応じて部会委員もPO訪問に参加することができる。

iii) プログラムオフィサーは、担当委員の行う現地視察にも立ち会うものとする。

iv) プログラムオフィサーは、毎年度終了時にPOフォローアップ報告書（別紙3）を作成し、~~担当委員の確認を経て~~部会に提出する。

v) プログラムオフィサーは、原則として関係する部会にオブザーバー出席することができる。

<委員会、部会>

部会は、担当委員から提出のあった現地視察報告書について、その内容を確認し、必要に応じてコメントを付し、実施大学の確認を経た上で実施大学に開示・公表する。また、プログラムオフィサーから提出のあったPOフォローアップ報告書については、その内容を確認し、必要に応じてコメントを付した上で実施大学に開示する。部会はこれら報告書の内容について委員会へ報告する。

各報告書における意見等への実施大学の対応状況については、部会の実施する中間評価及び事後評価において確認し、評価に反映させることとする。

なお、フォローアップの過程で、進捗状況に著しい問題があると部会が判断した場合は、委員会へ報告し、委員会の決定に基づき支援を縮小もしくは廃止することもありうるものとする。

② フォローアップの観点

i) グローバルリーダーの養成を目的とする事業の趣旨を踏まえ、

・ プログラムの実施・運営体制は適切に構築されているか。

・ プログラムは当初の構想・計画に沿って順調に進捗しているか。中間評価結果を踏まえた当初計画の見直し案に沿って、順調に進捗しているか。

・ ~~特に~~クオリファイニングエグザミネーション等、特色ある学位プログラムへの取組が進んでいるか。

・ 審査意見結果表および中間評価結果としてに付した留意事項及び現地視察報告書の意見等への対応はなされているか。

・ POフォローアップ報告書の意見等への検討・対応はなされているか。

・ 実質的な教育内容として、効果が期待できるものとなっているか。もしくは、効果が上がっているか。

・ 事業経費の支出内容は、費用対効果を含め、妥当であるか。

ii) より適切にプログラムを実施できるようなアドバイスはあるか。

③ その他

実施にあたっては、実施大学、担当委員等の過度の負担とならないように配慮する。

4. 委員現地視察の実施時期等

① 委員現地視察の実施時期

採択プログラムの実施期間のうち、実行初期段階としての2年目及び中間評価を踏まえた見直し時期にあたる5年目に行う。

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
	現地視察		<u>(中間評価)</u>	現地視察		<u>(事後評価)</u>

② 実施大学の関係者（委員現地視察対応者）

- ・〈必須〉プログラム責任者及びプログラムコーディネーター
- ・〈必要に応じ〉学長
- ・〈その他〉プログラム担当者、支援対象学生、メンター等

〈委員現地視察スケジュール例〉 概ね4時間程度

- ・担当委員打合せ（15分）
- ・プログラムコーディネーター等からの説明及びプログラム担当者・メンター等を含めた質疑応答（90分）
- ・支援対象学生との意見交換（~~75~~60分）
- ・教育現場（講義など）・施設等の視察（~~45~~30分）
- ・講評（30分）

5. 公表等

各大学の作成する実施状況報告書における「プログラム進捗状況概要」及び担当委員の作成する現地視察報告書については、日本学術振興会ホームページにおいて公表する。

6. 追跡調査

プログラムが事業目的に合致した効果を上げたかを将来的に確認・評価する観点から、実施大学は、プログラムにおける課程修了者のキャリアパスを継続的に把握するとともに、受入先機関における評価を聴取し、プログラムにフィードバックする体制を構築することとし、日本学術振興会からの求めに応じて、その状況を報告する。

博士課程教育リーディングプログラム
平成〇〇年度プログラム実施状況報告書

採択年度			
申請大学名		申請大学長名	
申請類型		プログラム責任者名	
整理番号		プログラムコーディネーター名	
プログラム名			

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

2. プログラムの進捗状況

(機関名： 類型(領域)： プログラム名称：)

<実施内容>

1. 実施・運営体制の構築状況

【応募時】

①指導・支援体制

②企画・運営・連携体制

③評価体制

【平成〇〇年度実績／進捗状況／フォローアップ等を踏まえた応募時からの変更点】

(機関名： 類型(領域)： プログラム名称：)

2. 構想・計画の進捗状況

【応募時】

①学位プログラムの内容

②優秀な学生の獲得・学修研究環境

【平成〇〇年度実績／進捗状況／フォローアップ等を踏まえた応募時からの変更点】

(機関名 :

類型 (領域) :

プログラム名称 :

)

3. 審査結果における留意事項等（プログラム委員会等からのコメントにおける改善すべき事項）への対応とその結果

○採択時及び中間評価時における留意事項

（採択時）

（中間評価時）

○フォローアップにおける指摘事項等

（〇〇年度）

（〇〇年度）

<平成〇〇年度における対応とその結果>

4. プログラムの実績

~~【平成〇〇年度実績】~~

~~①入学者数（定員）／在学者数（定員）~~

~~②修了者数（定員）／就職者数（就職先）~~

①プログラムにおける特筆すべき成果（学生の受賞や顕著な研究業績など、学生の活躍に関する成果を中心に記載してください）

②修了生の就職先

（機関名：

類型（領域）：

プログラム名称：

）

5. プログラムの応募学生数等

—	プログラム募集定員数(実数)	① 応募学生数				② 選抜学生数				③ ②のうち受講学生数				④ 修了者数		プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数)(小数点第二位を四捨五入)	充足率(合格者数/募集定員)
		応募学生数	—			選抜学生数	—			受講学生数	—			修了者数	うち就職者数		
			うち留学生数	うち自大学出身者数	うち他大学出身者数		うち社会人学生数	うち留学生数	うち自大学出身者数		うち他大学出身者数	うち社会人学生数	うち留学生数				
平成〇〇年度	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
平成〇〇年度	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
平成〇〇年度	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
平成〇〇年度	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
平成〇〇年度	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
平成〇〇年度	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
平成〇〇年度	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
計	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	()	[]	[]	[]	[]	[]	[]		

【備考】

※採択1年目から順に記入してください。なお、記入にあたっては、各年度3月31日現在(ただし最新年度は提出日現在)の人数を記入してください。

※「応募学生数」、「選抜学生数」、「受講学生数」の()にはそれぞれ女性数を内数で記入してください。

※「うち自大学出身者数」、「うち他大学出身者数」、「うち社会人学生数」の[]にはそれぞれ留学生数を内数で記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

※辞退者(Q. E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

(機関名 :

類型(領域) :

プログラム名称 :

)

5.6. 事業経費

(単位：千円)

経費区分	内訳	実支出額			交付決定額
		申請大学での 実支出額	共同実施機関で の実支出額	計	
物品費					/
	小計				
人件費・謝金					/
	小計				
旅費					/
	小計				
その他（奨励金）					/

(機関名： 類型(領域)： プログラム名称：)

	小 計				
その他（奨励金以外）					/
	小 計				
合 計					

(機関名 : 類型 (領域) : プログラム名称 :)

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成〇〇年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

<u>プログラム名称機関名</u>		<u>申請大学名</u>	
<u>申請大学長名プログラム名称</u>			
プログラム責任者		<u>プログラムコード</u>	<u>イネーター</u>
1. 進捗状況概要			

2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）			
